



元気っ子

No.262 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

5月に入ってからは、園庭の緑が日に日に濃くなってきています。心地よい木陰が出来て、園庭で元気に遊ぶ子どもたちの「憩いの場」になっていることかと思えます。

子どもたちも新入、在園児ともに、ひとりひとりがクラスの中での居場所を見つけ、安心して生活できるようになってきました。園庭では、運動会の練習であったり、元気に走り回っている子がいたり、スベリ台を何度も何度もすべって楽しんでいる子や砂場でままごと遊びをしている子、ダンゴ虫など虫探しをしている子がいたり、遊ぶ姿は様々です。

そんな中でも、友達と一緒に楽しんでいる子、また一人で遊んでいる子、友達の遊びをじっと見ている子がいます。子どもたちにとっての望ましい環境とは、自由な中に「一人でも遊べるし、みんなとでも遊べる」という人間関係だと思えます。仲間集団に参加して、人と関わり合いをもつ経験をしていないと、コミュニケーション能力が育たず、「一人でしか遊べない子」になってしまいます。これからの社会を生きていく子どもたちにとって、この「人間関係」は何よりも大切なことだと思えます。そんな中で、一番大切にしていることは「挨拶」です。挨拶は自分と他人とをつなぐ人間関係の第一歩でもあります。この人間関係というものをいかに育てていけるかが、子どもたちがこれから生きていくうえでとても重要になってくるかと思えます。いくらもの知り知識があっても、勉強ができて、人間関係がうまく築けなくては、その知識を生かすことは出来ませんし、また逆に、極端に言えば何も知らず知識がなくても、人間関係がうまく築ける人というのはそれなりに人生をうまく生きていくことが出来ます。

その人間関係のベースは子ども時代においては、生身の人間同士がぶつかり合い、ケンカをしたり、協力し合ったり、相手を気遣ったり、相手のために犠牲になる心に気付いたりしながらも、いっぱい、いっぱい夢中になって子供社会の中で遊びこむことによってはじめて体得できるのだと思っています。人間関係に自信がある子は、ものおしせず色々な分野に（もちろん勉強にも趣味や集団生活の中においても）自分を押し出していくようになると思えます。



各ご家庭におかれましても、是非、人間関係の第一歩である、「元気に大きな声での挨拶」を子どもたちにさせるのではなく、生活者モデルである親（お父さんお母さん）が進んで試みて下さい。きっと子どもたちは親の真似をして「元気に大きな声で挨拶」ができ、人間関係の豊かな人に育っていくことと思えます。

6月1日（土）は運動会になります。気温の上昇が予想されますので熱中症には十分気を付けて、子どもたちとの一日を楽しんでください。